

<主の霊によって成る>

ゼカリヤ4：1～7



燭台：ともしび皿にオリーブの油を注ぎ、
芯に火をつけて明かりを灯した。
*オリーブ油が切れないように人が
油を注ぎ続けなければならなかった。

あなたはイスラエル人に命じて、ともしびを絶えず
ともしておくために、燈火用の質の良い純粋な
オリーブ油を持って来させよ。 レビ24:2



【ゼカリヤが見た幻】

オリーブの木の枝に金の管が繋がれ、常に油が
ともしび皿に注がれていて、人の手を必要としな
かった。

この幻は何を指しているのか？

ゼカリヤは尋ねた。

「主よ。これらは何ですか。」私と話していた御使いが答えて言った。

「あなたは、これらが何か知らないのか。」私は言った。「主よ。知りません。」
すると彼は、私に答えてこう言った。

「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』
と万軍の主は仰せられる。 ゼカリヤ4：4～6

【背景】

バビロン捕囚から帰還した民が、最も重要であった神殿再建工事に取りかかった。
しかし、その事業が困難を極め、暗礁に乗り上げてしまった。
ゼルバベルは、神殿再建を任されたリーダー。

- ・贅を尽くした荘厳なソロモンの神殿が、廃墟と化したことのショック！
- ・自分達の信仰の姿を表しているかのよう。
- ・帰還した民は、がれきを取り除き、再建工事に取り掛かかる。
- ・神殿の再建は、自分達の信仰の復興にもつながることだった。

- ◆イスラエルが全盛期だったソロモン王が神殿を建てた時代、民は喜んで働き、諸外国からの協力や、膨大な富を費やして壮麗な神殿が完成した。しかしゼカリヤの時代はその反対だった。民の士気は低下。外敵からの攻撃。費用も乏しい。神の宮など建てられるはずがない！
しかし、神が示した幻は・・・ 人の手によらず、神の霊による。

なぜ神さまは、人を用いようとされるのか？！

イエスさまは、土壇場でイエス様を否んだペテロに、「あなたはわたしを愛するか」と尋ね、「わたしの羊を飼いなさい」と大切な働きを、このペテロに委ねた。

欠けただけで、無きに等しい人を用いるのは、ご自分の喜びを、私たちと共に分かち合おうとされるから。

大いなる山よおまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地になれと。『恵みあれ。これに恵みあれ』と叫びながら、かしら石を運び出そう。【7節】

最後の積み石が据えられて、工事が完了するまで神は助けてくださる！

- ◆人間的な力にだけ頼るなら枯渇する。問題の渦中で聖霊に依り頼むことを学ぶ。

イエスさまの御生涯こそが

『権力のよらず、能力によらず、主の霊によって』の現れだった！

彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。

人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。 イザヤ53：3

しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって私たちはいやされた。 イザヤ53：5

- ◆救いの道を開く大事業を成し遂げられたイエス様は、権力も能力も用いることはなく、その業は完成された。これが、神が人を救うために用いられた方法。

十字架のことは、滅びる至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには神の力です。

1コリント1：25